

城北信用金庫所属のアスリート職員の原点を知る

ATHLETES ZERO

limited edition

[アスリーツゼロリミテッドエディション]

大村朱澄

スポーツインタビュー

城北信用金庫

「変化を恐れない」

隅田川(台東区花川戸)

ATHLETES ZERO limited edition vol.6

2019年5月発行

photographs by Aiko Kawabe / designed by Megumi Imano / directed by Hiraku Hoshino



城北信用金庫は、
所属するアスリートを介して、
スポーツの万能性への
理解を深めることで、
より豊かな社会づくりを
目指します。

ATHLETES ZERO

アスリート職員による、日々の出来事や成長を
つづったブログ等をご覧ください



Johoku Athletes Club

特設Webサイトにて、
アスリート職員の活動報告をご覧ください



 JOHOKU SHINKIN BANK

Webにて公開中

「海外遠征や長期合宿が多かったので、授業に出られないことがよくありました。遠征先ではいつも寝る間も惜しんでレポートを書いていましたね」

しかし次第に日本代表としての活動が増えていき、授業に出るのもままならない日が続いた。じた彼女は、ある決断をする。

「ソンブン五輪までの2年間を休学して、カヌーだけに専念することを決めました。北京五輪の時はあと一步のところで出場を逃してしまい悔しい思いをしたので『次は必ず』っていう思いをずっと持っていました」

そんな彼女の強い気持ちは結果にも現れた。10年広州アジア選手権で2位、続く11年アシア選手権でも2位に入り、夢の舞台への切符を手にする。

「五輪出場はカヌーをはじめたときからの夢でした。少しでもメダルに近づくために種目を絞って挑みましたが、結果は予選敗退。初めての五輪は悔しい思い出になりました」

「アスナビの方からは『競技をスタートを切った。新たな目標は向け再スタート、更なる飛躍を求め選んだ変化



「周囲の人の支えがあったから決断できました

夢の実現のために下した決断



中央右上。創部初の全国大会団体優勝に導

「あの時の選択は正しかった。
このままでは絶対終わらせない！」

結果にいたための十分な時間と費用を確保できる企業への就職は厳しい』と言わっていました。だから、城北信金から声をかけていただけで、今こうして競技が続けられていることにとても感謝しています」

入庫後も日本代表メンバーとして恵まれた環境の中でトレーニングを積んでいたが――。

「16年の夏に日本代表チームから一度離れて、一人の力で頑張ってみることにしました。自分が勝つことをイメージできなくなつたことが大きな理由です。リオ五輪の出場権を逃し、ここ何年もベストタイムを更新できない状態で、東京五輪に出向くには変化が必要だと思いまして」

これまでがむしゃらに前だけを見てやってきた彼女に訪れたランプ。自分自身とじっくり向き合うことで、日本代表から

長い競技人生の節目の
これまでの自分自身のために

「まずは東京五輪の決勝の舞台に立つことが目標です。東京五輪は私の中でも一つの区切りと考えています。長い競技人生、今までやってきたことを自分自身のために、ちゃんと生かしてあげたいと思っています」

これまで支えてくれた家族のために、そして自分自身を裏切らないために、再び夢の舞台へ。

変化を恐れない

大村朱澄

力強いパドルさばきで水上を疾走する大村朱澄選手。これまで数々の国内・国際大会で結果を残し、今後一層の活躍が期待されている。そんな彼女がカヌーとともに歩んできた20年の競技人生の軌跡を辿ります――

Asumi Onimura
1989年11月11日生まれ O型 静岡県出身



大のお兄ちゃん子。三兄妹はいつも一緒だった。

「われた彼女だったが」。

「日本代表チームとの実力の差を痛感しました。それまでは高校を卒業したらカヌー留学をしようと思っていたけれど、まずは国内で一番になりたいといふ考えに変わりました」

A portrait of Kanako Saito, a young woman with dark hair, smiling warmly at the camera. She is wearing a light-colored blouse with thin vertical stripes and puffed sleeves. The background is a plain, light color.

1989年11月11日に静岡県の自然豊かな町で、3兄妹の末娘として生まれたあーちゃん。体を動かすことが大好きで、一番の遊び相手は2人のお兄ちゃん。毎日サッカーや木登りをして遊んでいた。そんな少女が力ヌーと出会ったのは小学校2年生の時だった――。

15歳にして日本代表入り
日本一の選手になるために